



平成 29 年 2 月 10 日

各 位

上場会社名 大黒屋ホールディングス株式会社  
 代表者 代表取締役社長 小川 浩平  
 (コード番号 6993)  
 問合せ先責任者 総務部長 岩瀬 茂雄  
 (TEL 03-3448-7300)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 8 月 9 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり当期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	23,939	2,121	1,463	631	7.47
今回修正予想(B)	20,308	383	△279	△522	△6.48
増減額(B-A)	△3,631	△1,738	△1,742	△1,153	-
増減率	△15.2	△81.9	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期)	20,165	1,755	969	99	1.28

修正の理由

主な修正内容は次のとおりです。

(国内 大黒屋)

国内主要子会社である大黒屋においては、昨年 8 月以降も継続しています円高と為替の乱高下が、同社の業績にも多大な影響を及ぼしています。12 月のクリスマス商戦も終え、12 月までの実績を踏まえ当社の通期見通しに大きな変動があることが下記の理由にて明確になりましたので、今回通期の業績予想を修正いたします。

売上高は、前回予想から 3,140 百万円減少し、14,757 百万円（対前回予想比 17.5%減）の見込みとなります。

#### ◆第 3 四半期までの分析

[全体]

- ・円安時に仕入れた商品在庫が高くなったため、急激な為替変動に対して迅速に対応するために積極的に販売単価を引下げて在庫洗替えのため 7 月～8 月に在庫を処分することを通じ、商品在庫を 2 カ月間で 1,155 百万円圧縮したことが背景。
- ・その後、10 月以降は、在庫の洗い替えは継続され、為替の影響で店舗商品仕入れが低迷したこと、在庫処分により高額品を処分し、売れ筋商品のウェイトを高めたことにより、在庫単価の 33%下落を達成できました。しかし、11 月末の商品在庫が対前年比 1,170 百万円減少し、12 月のクリスマス商戦で計画時に予測していた売上を確保できなかったことによる影響（ただし、前述の在庫の洗い替えによる在庫の適正化による、

市場競争力がありかつ十分な粗利益のとれる価格設定での12月単月の販売数量は前年比増加)。利益については、営業利益で964百万円減少し、1,057百万円(対前回予想比47.7%減)の見込みとなります。

#### 【店頭売上・粗利益】

- ・店頭売上高の減少にともなう減益額(主に、適正価格での買取が難しかったため) △726百万円
- ・店舗販売における中古市場での仕入れウェイト増にともなう粗利益率低下による減益額 △175百万円

#### 【直近の動向】

12月下旬には在庫の質及び量も改善し、12月の販売数量の増加に伴い売上高も回復してきていますが、通期においては第3四半期までの急激な円高に対する対応のための売上高の減少・粗利益率の悪化に伴う大幅な減収減益は避けられないと判断し、業績予想を下方修正いたしました。

#### ◆第4四半期の見込み

- ・予算時に計画していた第4四半期の新店出店が来期にずれこむことによる売上減少
- ・第3四半期までの実勢及び12月後半からの伸びを考慮した上での現実的な店舗販売・本部販売数値の見直し(習近平ショックの一巡による対前年でのプラス成長は見込めるものの計画に対しては達しないと想定)
- ・7月、8月以来実施してきた在庫の積極的な洗い替えにより現在の店頭在庫は量・販売価格・粗利益率という観点で競争力のある状態になっているため数量、収益性という観点では第3四半期までと比しては改善を見込んでいます。

#### (海外 Speedloan Finance)

一方、平成27年10月に英国にて買収しましたSFL(Speedloan Finance Limited)グループにおきましては、ポンド安等を背景に収益確保が期待されましたが、今回の通期見通しにおいては、売上高は30百万円の減少となりましたが、営業利益は下記の理由にて△420百万円減少し、41百万円(対前回予想比91.9%減)の見込みとなりました。

- ・クリスマス商戦向け仕入不足が主な原因となるリテール売上減少(△589百万円)及びマージン率の低下による利益の減少 △307百万円
- ・好調なゴールドの売上増加(+448百万円)による利益の増加 +55百万円
- ・買収後のリストラ等一時的費用(人件費及び弁護士等専門家の費用)の増加 △122百万円
- ・その他一般管理販売費の増加 △46百万円

同社においては、買収以降業務改善は進んでおりますが、通期での利益の減少は避けられないと判断し、通期見通しの下方修正をしております。

上記の当社主要子会社2社の業績修正を主な理由として、当社連結業績予想を修正することといたしました。

なお、本資料に記載されています業績予想につきましては、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

以 上